

鈴木正三・重成公ゆかりの天草を訪ねて 第3回目

鈴木重成公あってこそその鈴木正三、正三あってこそその重成

1. 萬松山 功德林 國照寺

寛永18(1641)天領 開基鈴木重成代官 開山 一庭融頓大和尚(長崎皓台寺)

一仏二十五菩薩(もと円通寺にあった)

隠田事件(脱税行為) 寛永11年(1634)天草一揆の4年前 重成 47歳

2. 大江八幡宮

大江村に入った鈴木重成と痘瘡(天然痘)

3. 崎津集落(崎津教会、崎津諏訪神社)

崎津諏訪神社

4. 天草崩れ

江戸時代後期、肥後国天草郡で隠れキリシタンが検挙された大事件。

島原の乱(1638)後、幕府は絵踏・宗門改めを強化してキリシタン宗徒を摘発した。
約160年後に潜伏キリシタンが発覚。

天明3年(1783年)以来、天領の天草は島原藩が預地として統治していた。

事件の吟味を担当した島原藩は、天草に怪しげな宗教活動が存在していることは事前に察知しており、崩れの数年前から「異宗」の探索を内密に進めていた。

島原藩は内密に探索していたが、奉行の方から「異宗」問題を指摘され、仕置不行届をとがめられる前に、文化元年(1804年)10月に天草の「異宗」の存在を認めて、今後の吟味方針について幕府に伺いを立てている。

幕府の吟味措置の目的は、

1. 「事件の拡大回避」
2. 「反発による一揆への警戒」
3. 「対応遅延の隠蔽」

「宗門心得違い」とであると認定。

5. 宗教間対立から融和への道を模索。

鈴木重成の統治姿勢。

遠藤周作『沈黙』・・・イエス「踏むがいい」